

地域再生計画（地方創生道整備推進交付金）中間評価調査

都道府県名	石川県	事業実施主体	石川県、かほく市 津幡町、内灘町	地域再生計画名	「豊かな自然を生かした河北の賑わいづくり」計画
計画期間	令和2年度～令和6年度	評価責任者	石川県農林水産部森林管理課長 石井康彦、かほく市都市建設課長 庭田一彦、津幡町都市建設課長 本多克則、内灘町都市建設課長 渡辺崇		

①地域再生計画に記載した数値目標の実現状況	指標		基準値		中間目標値		最終目標値		中間評価	達成状況		中間目標値の実現状況に関する評価	
	指標1	加工品作成取組み団体の増	10団体	R2	12団体	R4	12団体	17団体		R6	指標総数		達成数
	指標2	森林整備面積の増	65ha	R2	74ha	R4	117ha	80ha	R6	○	3	3	進捗は遅れ気味であるが、市町道や林道の着実な一体的整備が図られているところであることから、目標値を概ね達成できる見込みである。
	指標3	観光入込客数の増加	173万人	R2	191万人	R4	199万人	209万人	R6	○			市町道及び林道の整備を着実に進めたことにより、中間目標値を達成することができた。
②事業の進捗状況	事業名		整備量（その他の事業では取組内容）			事業の進捗状況に関する評価							
			計画	中間年度（R4）	最終実績見込み								
特別措置を適用して行う事業	市町道整備事業（整備延長）		18.1km	8.42km	18.1km	進捗は遅れ気味ではあるが、計画延長の約4割強の整備が完了しており、地域間の交通ネットワーク強化に寄与している。残る事業についても引き続き事業の促進を図り、更なるアクセス改善や安全性の確保を図りたい。							
	林道整備事業（整備延長）		0.6km	0.3km	0.6km	順調に工事は進捗しており、最終実績に向けて事業の促進を図りたい。							
	林道保全対策事業（整備路線）		6路線	2路線	6路線	林道整備を最優先したため、中間年度の実績が2路線と進捗は遅れ気味であるが、林道整備が完了したことから、最終年度までには保全対策未実施の、かほく市分4路線について、事業を実施して目標の達成を図りたい。							
	林道改良事業（整備路線）		3路線	1路線	3路線	進捗は遅れ気味ではあるが、緊急度が高い路線から順次整備が完了しており、地域間の交通ネットワーク強化に寄与している。残る事業についても引き続き事業の促進を図り、更なるアクセス改善や安全性の確保を図りたい。							
その他の事業													
計画外で独自に実施した事業	西田幾多郎記念哲学館ライトアップ事業		哲学館及び哲学の杜を幻想的にライトアップし、夜のシンボリック存在として、道の駅高松における日本の夕日散策と連携した周遊型観光の誘客促進により、周辺の観光施設のPRと合わせて交流人口の拡大を図る（かほく市単独事業）			R2年度以降、新型コロナウイルス感染症の拡大により哲学館、道の駅ともに入込客数は大きく減少した。コロナ禍においても、哲学館でのライトアップは継続して実施し、道の駅高松においても感染対策を実施しながらのイベント(里山マルシェ等)を企画、開催してきたが、R4年度末時点でも入込客数はコロナ前の水準までは回復しておらず、交流人口の拡大は図れていない。							
	かほく市特産品ブランド発信事業		市内の農林水産物、同加工品、工業製品をかほく市特産品ブランドとして認証し情報発信することにより、生産・販売を促進し、加工品作成取組み団体の増加を図り、6次産業の創業・就業による農山漁村の活性化を図る（かほく市単独事業）			ブランド認証品数の規模が年々拡大している中、ホームページやパンフレットのほか、SNSや各種イベントでの物産PR、ふるさと納税への採用も積極的に推進しており、生産・販売促進に寄与している。							
	森林セラピー事業		「森林セラピー基地」に認定されている石川県森林公園において、癒し効果が科学的に検証された森林浴効果の体験プログラムを推進する事業であり、森林の散策やリラクゼーションプログラムを通じて、心と身体の健康維持・増進、病気の予防を目指す（津幡町独自事業）			本州有数の規模を誇る石川県森林公園内において、平成23年5月から森の保全活動を通じて生物多様性の保全性を訴える「MISIAの森」プロジェクトにより、子どもたち自身が未来を考えていくきっかけとなるような「豊かな森」づくりを進めてきたが、引き続きプロジェクトを実施していきたい。							
	ミルク王国ウテナダプロジェクト		県内の生乳生産量の約半分を占める農事組合法人河北潟酪農組合の生乳を活用した各店舗のオリジナル商品の開発及び事業展開することにより参加企業の収益拡大とともに、中長期的に河北潟全体のブランド化を図ることで、地域経済の活性化を目指す（全国商工会連合会支援事業）			オリジナル商品の展開により、河北潟全体のブランド化が図られ、地域経済の活性化につながった。							
③評価方法	評価委員会を開催し、中間目標値の実現状況に関する評価・検討等を行った。												
④中間評価の公表方法	各事業主体のホームページに掲載												
⑤計画全体の総合評価	市町道や林道の一体的な整備が図られており、森林整備面積の増加に寄与している。しかし、令和2年度以降、新型コロナウイルス感染症の拡大の影響により加工品作成取組み団体数や観光入込客数の減が危ぶまれたが市町道及び林道の整備を着実に進めたことにより集客数の増につながる結果となり中間目標値を達成できた。												
⑥今後の方針等	中間評価結果の反映状況						有りの場合その具体的内容						
	地域再生計画の見直し（有・無）												
⑦今後の方針等に対する対応	令和6年度予算要望額への反映（有・無）												
	有りの場合の増減額 千円												